

復興大臣 西銘 恒三郎 殿

原発事故による帰還困難区域を抱える町村の協議会

帰還困難区域の  
復興・再生に向けた要望書

令和4年5月13日

原発事故による帰還困難区域  
を抱える町村の協議会

会長 吉田 数博

## 原発事故による帰還困難区域を抱える町村の協議会

### <構成員>

双葉郡浪江町 町長 吉田 数博 (会 長)

双葉郡大熊町 町長 吉田 淳 (副会長)

双葉郡富岡町 町長 山本 育男

双葉郡双葉町 町長 伊澤 史朗

双葉郡葛尾村 村長 篠木 弘

### <オブザーバー>

双葉郡浪江町議会 議長 佐々木 恵寿

双葉郡大熊町議会 議長 吉岡 健太郎

双葉郡富岡町議会 議長 高橋 実

双葉郡双葉町議会 議長 伊藤 哲雄

双葉郡葛尾村議会 議長 吉田 義則

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から11年が経過しました。

原子力災害は未だ収束しておらず、帰還困難区域で生活を営んでいた住民は、故郷への帰還も出来ぬまま、辛く苦しい避難生活を続けています。

特定復興再生拠点区域については除染・解体をはじめとする避難指示解除への取組が進み、全ての町村で避難指示解除が実現される見込みです。一方で、特定復興再生拠点区域外については「国は、2020年代をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めていく。」との方針が昨年示されました。

帰還意向による避難指示解除は、我々町村が求める全面解除には遠く及ばず、解除されるエリアが小さくなることにつながりかねません。

また、長い避難生活によって帰還することができない方の土地・家屋等についての課題は残されたままとなっており、帰還困難区域を抱える町村の真の復興には、まだまだ長く険しい道のりが続きます。

国の責務として、帰還困難区域の全ての避難指示解除に向けて、我々町村の実態に寄り添い、総力を挙げて対応いただくよう、次のとおり要望いたします。

## ＜要望事項 1＞

特定復興再生拠点区域復興再生計画に含まれなかった帰還困難区域（以下「拠点区域外」という）について

### 《重点要望》

#### （1）拠点区域外の避難指示解除に向けた取組の実施

拠点区域外への帰還・居住に向けて、「2020年代をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めていく」と示した国は、避難生活が10年以上続いている住民が帰還したいと思うことができるように、丁寧かつ迅速に最大限意向をくみ取り、特定復興再生拠点区域の避難指示解除から期間を置くことなく、除染に着手すること。

避難指示解除の前提となる生活に必要なとされる範囲については、帰還する住民の意向を反映し、安心して生活できるように幅広く捉え、必要な除染を行うこと。

また、方針にある「住民の居住・生活に必要なインフラの整備」を進めるため、道路等に対する必要な財源を確保すること。

### 《重点要望》

#### （2）残された土地・家屋に対する方針の明示

拠点区域外の建物については、荒廃が進んでおり、火災が発生する恐れがあるなど、現状のまま放置することはできず、所有者からは「自宅が朽ちていく様を見ていられないので解体してほしい」、「いつまで除染を待てばよいのか」等、悲痛な声が寄せられている。

長期避難を強いられ、すぐには帰還意向を示すことができない住民の土地・家屋について速やかに方針を示すこと。

## 《重点要望》

### (3) 帰還困難区域の全てを避難指示解除するためのビジョンの明示

国が示した「たとえ長い年月を要するとしても、将来的に帰還困難区域の全てを避難指示解除し、復興・再生に責任を持って取り組むとの決意」を実現するためには、面的な避難指示解除の拡大が必須である。

全域の避難指示解除に向けたビジョンを示し、復興のステージに応じた除染・避難指示解除を実施できる制度を構築すること。

## 《重点要望》

### (4) 立入規制の緩和とこれに伴う防犯対策の一層の強化

方針で示された立入り規制緩和等について、一日も早く実施すると共に、安全性を確保するための家屋解体や除草・伐採等の有害鳥獣対策及び荒廃抑制対策をしっかりと行うこと。

また、帰還困難区域内では、窃盗、盗難が多発していることから、より一層の防犯対策を講じ、窃盗などから住民の大切な財産を守るための防犯パトロールを強化すること。

## 《重点要望》

### (5) 帰還困難区域の住民への生活支援の継続

方針に基づく拠点区域外の除染開始のためには丁寧な住民意向の把握が不可欠であり、除染・避難指示解除には年月を要することが予想される。

また、特定復興再生拠点区域においても、長期間の避難生活によって、すぐには帰還できないため二地域居住等を選択する住民は多い。

ふるさとを守るために更なる負担を強いられている住民のため、復興・再生を実現するまで、支援策を継続すること。

## 《重点要望》

### (6) 住民の帰還気運醸成のための拠点区域外の除染・解体の実施

帰還困難区域の復興・再生を成し遂げるためには、帰還意向に基づく除染だけでなく、帰還気運醸成に向けた整備が必要である。

町村の復旧・復興に向けた取組に応じた除染・解体を実施すること。

## 《重点要望》

### (7) 除染土壌等の最終処分地選定等

現在、大熊町、双葉町において、福島県内の除去土壌等について、最終処分が行われるまでの間の中間貯蔵の受け入れが進められているが、最終処分への道筋が未だ示されておらず、帰還困難区域の復興の足かせとなりかねない状況である。帰還困難区域の全ての避難指示解除のためにも、最終処分地の選定を早期に実施すること。

## ＜要望事項 2＞

特定復興再生拠点区域復興再生計画に含まれる区域（以下「拠点区域」という）について

### 《重点要望》

#### （1）特定復興再生拠点区域復興再生計画に基づく拠点区域整備の促進

避難指示解除を円滑にむかえるため、拠点区域における除染やインフラ整備等を着実に進めるとともに、農地の再生や復興の拠点施設の整備に対する支援等、国においては、十分な財政措置を含め、支援の充実により一層の機能強化の促進を図ること。

#### （2）放射線量の測定及び線量低減対策の実施

国の責任において拠点区域の詳細な放射線量測定を行い、除染終了後には放射線モニタリング測定を実施し、速やかに住民に周知することはもとより、フォローアップ除染など、継続的に被ばく線量低減に向け必要なあらゆる対策を講じること。

## ＜要望事項 3＞

### 原発事故による帰還困難区域を抱える町村の復興・再生について

#### (1) 復興・再生に向けた人的・財政的支援

帰還困難区域を抱える町村の復興には中長期的な取組が必要  
なため、国においては、今後とも、住民が帰還できるよう財政  
面・人材面等あらゆる側面から復興・再生を後押しすること。

#### (2) 交通網の整備

##### ア JR常磐線について

特急列車の増便や通通勤時間帯のダイヤの見直しといった利  
便性の向上など、地域の実情や要請に応じたJR常磐線の機能  
強化を行うこと。

##### イ 常磐自動車道について

常磐自動車道については、双葉地方の復旧・復興を推進するた  
めに必要な基幹的インフラであり、廃炉作業の進展等の原発事  
故に起因する諸課題の解決や、地域の復興に向けた社会基盤の  
整備といった観点からも、広野IC・ならばSIC間の早期4車  
線化を目指すほか、ならばSIC・浪江IC間約25Kmについ  
ても早急に取り組むこと。

また、廃炉作業や中間貯蔵施設工事、除染廃棄物の輸送等の原  
発事故に起因する諸課題の解決や、地域の復興に向けた環境整  
備といった観点からも、常磐双葉ICまでのアクセス道路の整  
備促進が必要であるので、国においては、十分な財政措置を含め、  
支援の充実により一層の機能強化の促進を図ること。

## ウ 国道等の整備について

### ・国道6号

双葉地方の主要道路である国道6号については、復旧・復興事業の進展や中間貯蔵施設への搬入量増加に伴い交通量が増加しており、特に大型車の交通量が増加している。福島県警察等において、道路交通の適正な安全管理対策に取り組んではいるものの、慢性的な渋滞の発生や重大事故を含め交通事故の増加が課題となっている。今後も一層の交通量の増加が見込まれるので、道路交通の安全・安心の確保の観点から、渋滞緩和等の措置を行うこと。

### ・国道114号・288号

古くからその狭隘さに起因する渋滞や事故の発生が懸念されてきた経緯があり、東日本大震災時にはそれが現実のものとなり、避難車両による渋滞が発生し、速やかな避難に支障を来たす結果となった。最近では中間貯蔵施設への除染廃棄物搬入や土砂運搬のための大型車、廃炉や除染等復興事業関係の車両が列をなし、一般車両通行の大きな支障となっており、また、それに伴う事故の発生も報告されている。両国道の拡幅を早急を実施すること。

### ・ふくしま復興再生道路

住民帰還の加速や産業再生を支える、以下に掲げる「ふくしま復興再生道路」の整備を早急に進めること。

国道349号

国道399号

県道小野富岡線（県道36号）

県道吉間田滝根線（県道145号）

・ふくしま復興再生道路以外の整備

ふくしま復興再生道路（8路線29工区）以外にも、相馬郡・双葉郡の物流を支え、浜通りと中通り地方等との交流人口の拡大・産業交流の活発化に必要な、以下に掲げる連携道路等の整備を図るために必要な財政支援を行うこと。

県道上戸渡広野線の改良整備

県道いわき浪江線の整備促進

県道浪江三春線の整備促進

県道落合浪江線の整備促進

県道山田岡上郡山線の改良整備

県道広野小高線の早期全線整備促進

県道富岡大越線の改良整備

県道井手長塚線の改良整備

県道長塚請戸浪江線の改良整備

県道原町二本松線の改良整備

県道原町川俣線の改良整備

さらに、拠点区域の広域連携形成の視点から、拠点区域と中通り地方及び、拠点区域間を連絡する道路整備が必要不可欠であるため、その財政支援を行うこと。

### **(3) 先行解除された地域との公平な支援**

帰還困難区域の住民についても、先行解除された地域の住民に対して講じられた支援を同様に行うとともに、今後検討するとされた帰還困難区域の医療・介護保険料等の特例期間、固定資産税の減免措置や町村が実施する支援策等に不公平が生じないよう必要な財源を確保すること。

## **《重点要望》**

### **(4) 風評対策**

「帰還困難区域」が町村内に残ってしまうことで、地域の復興が遅れるということが決してないよう、風評対策に確実かつ継続的に取り組むこと。

**以上**